

## 連携先世界遺産：清水寺

### 清水寺の△△の〇〇(良い点)を磨け!もしくは□□(困っている点)を救え!

境内の魅力を再発見しそれを伸ばす、あるいは問題点を発見しその問題解決を図る、いずれにしても独自の視点で新しい課題を見つけ解決する

#### ■受講生

中須賀友哉 (立命館大学・理工学部・5回生) 山口佳乃子 (立命館大学・文学部・5回生)  
芳田知紀, WANG Qiuyang (立命館大学・理工学部・3回生) 宇賀圭祐 (立命館大学・文学部・3回生)  
山下翔平 (龍谷大学・社会学部・3回生)  
木村優斗 (立命館大学・理工学部・2回生) 西村鈴花 (京都女子大学・文学部・2回生)  
杉原穂紀 (立命館大学・理工学部・1回生)

#### ■担当教員

宗本晋作、青柳憲昌、遠藤直久 (立命館大学・理工学部・教授、准教授、助手)

#### 活動目的・概要

世界遺産・清水寺を対象に、お寺でもまだ気づいていない、時代を超え後世まで維持していくべき良い点は何か?逆にまだ気づいていない困りそうな点は何か?

未来の清水寺のために見つける課題は、良い点でも、困っている点でもよい。清水寺での講話やフィールドワークから良い点または困っているを発見し、良い点なら伸ばし、困っている点なら改善できるように考えてもらう。学生達が独自に発見し設定した課題を既成概念にとらわれることなく、創造性豊かに解決する提案を創造することを目的としている。

学生を3グループに分け、清水寺で講話を聞き実地調査を行った。グループごとに独自の視点で清水寺の良い点、もしくは困っている点を見つけてもらった。成果は成果物はホームページ等で公開し活用いただくことが目標として、森先生にもご参加頂き、議論と推敲を重ね、各々の提案に辿り着く。

例年通り、共同作業を経て、他大学の学生や理系文系の専門分野の異なる学生同士が、積極的な交流を図ることも目的の一つとしている。結果、初年度から続く受講生のOBOG会=清水寺ファンの定着に繋がっている。



#### ◆主な活動

2019. 5. 12 ガイダンス、全体オリエンテーション  
2019. 6. 09 世界遺産に関する学習、森清頭先生による清見寺の案内、グループ決定  
2019. 6. 30 青柳先生による建築史からの講義  
2019. 7. 06 フィールドワークと第1回草案批評  
2019. 8. 18 第2回草案批評、現地調査とアイデアづくり  
2019. 9. 09 第3回草案批評、フィールドワーク  
各班によるアイデア推敲  
2019. 9. 10 第4回草案批評、フィールドワーク

2019. 10. 06 第5回草案批評、具体的な提案の決定  
2019. 10. 13 森清頭先生への中間発表、講評頂き、提案の修正とより具体化の方針確認  
2019. 11. 03 第6回草案批評、提案内容の具体化  
2019. 12. 08 森清頭先生への成果物発表  
2019. 12. 15 成果発表

## 活動の成果

清水寺での講話やフィールドワークを通じ、各グループの発見した問題解決のための着想をもとにそれぞれの提案をまとめました。その人しか知らない清水寺の魅力について語るものや、手紙で観音様とより親密になろうというもの、子供を焦点に当てて修行という名のツアーを考えるものなど、オリジナリティ溢れる魅力的なアイデアを各々が試行錯誤して生み出しました。

## あなたの知らない清水寺

清水寺の現状は、人の多さや騒々しさによって、清水寺と向き合うことなくお寺を後にしてしまう。

その人しか知らない清水寺＝「私たちが知らない清水寺」の姿を、口伝やチケットの裏に詩的に表示することにより、美しい清水寺の追体験を共有することを試みる。

決して具体的なイメージや場所の情報を与えない。しかしながら、人は、なぜかそこを探そうとしてしまうのである。

美しい景観を伝える言葉は、人をその場に誘導し、とどまらせる。もの思いにふけるさせる力がある。本来の仏教観を追体験し、人から人へ伝える力があることを示す。

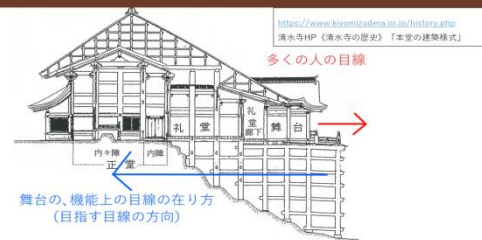


## 観音様への手紙

今日の清水寺は、参拝者より観光客が多い状況だ。舞台の上では、観音様の方向より、京都の街並みに視線が向いている。この視線を観音様の方向に戻し、観光客を参拝者に変容できないかを考えた。

提案は、舞台の上で、観音様への手紙を奉納することである。そうすることで、視線を観音様の方向に戻し、清水寺の仏教感到触れ、観光客を参拝者に変容させることができるはずである。

### 「ポストの設置」



## 清水寺を広める

子供達にさわる、もちあげる、みずをかけるなどの行為を通して清水寺にふれてもらう「修行」を提案する。

この修行は、子供達が大人になった時、観光客ではなく「参拝者」として再び清水寺を訪れ、彼らの友達、子供達に清水寺の本質を伝えるきっかけとなる。

また、その友達、子供達がまた同じように次々と清水寺の本質を語り、清水寺の「参拝者」が増えていく。





## 活動を振り返って

- どんな成果ができるか分からない中で、別の大学の、別々のキャンパスの人間が集まって最初は不安があった。この経験を通して学んだことは、貴重なので大切にしていきたい。
- 清水寺の魅力は、その景観だけでなくあらゆる要素が重なり合った結果にあると感じることが出来た。今まで見ることが出来てなかった、魅力に気づけたのでとても有意義だったと感じている。
- 最初は年間登録単位数の上限外だと思っていたのに上限内だと気づいたときはやる気がなくなってしまった。しかし、講義に参加する度に普通の大学生活ではなかなか得られない経験、この講義を受講したことで得られた友達、気づけばこの講義を受講してよかったと思っている自分がいた。
- 今まででは与えられた課題に対して解決法を考えることが多かった中、この授業では、自分たちで課題を設定し、解決するという貴重な体験ができました。社会に出てから役立つ力が少しですが、身についたと思います。
- シラバスを見た時は清水寺という京都を代表する観光地に対して私たち学生が改善点を発見できるのかという疑問がありましたが、回数を重ねていくにつれ改善点が明確になり、それに対しての対応策を考えていく過程が良い経験になりました。
- よくお邪魔させていただいている清水寺でまだまだ知らないことを知ることができ、その上自分が知らなかった清水寺の魅力に気づけ、非常に有意義な時間を過ごすことができました。
- この授業を受ける前にも何度も行ってきれいな風景を見ましたが、授業を通して清水寺の普段気づかない面白いところをたくさん見つけて、そして寺の歴史の深さと広さも少し理解できて、とても勉強になりました。
- 住職さんや他大学の先生に直接話を聞けるなんてことは普段はまず無いので本当に貴重な機会を頂いたことに感謝しています。大変なことも多くありましたが、珍しい体験ができてとても楽しかったです。
- 今まで清水寺を観光地としてしか見れていませんでしたが、授業を通してお寺に参拝する本来の意味を深く考えることができました。清水寺に限らず、より神聖な気持ちでお寺に向き合えるようになりました。

## 担当教員からのコメント

### 宗本晋作

課題の解決法と問題設定の組合せを学生自身で発見しなければならないため、最初の部分で手こずる学生は多い。しかしながら、苦戦しながらも見出した活路は、魅力ある新しい構想に繋がり、それを人に伝えようとする高い創作意欲になると信じ指導している。今回も学生たちの高い意欲を原動力に、授業時間後や時間外の長時間にわたる積極的な実地調査や議論により、期待以上の成果品ができたように思う。また学生たちの新鮮なアイデアを共にブラッシュアップしていく過程で、私自身も考えさせられ、共に学んでいる。

今年で5回目となった今回もまた、私自身にとっても大変実り多い経験となった。この背景には、森清顕先生をはじめとする清水寺の大きなサポートがあったことを特筆させて頂いた上で、今一度、同寺関係者の皆様には深く感謝を申し上げたい。

### 青柳憲昌

この課題は、現在の清水寺について学生たちが自ら感じた良い点や課題を発見し、提案してもらおうというものです。普段は仏教に深く触れる経験が少ない学生にとって、難しい課題であったと思いますが、学生たちは意欲的で、初心ならでのユニークな提案もあり、はじめに期待していた以上の成果が生まれたと思います。清水寺という魅力的なフィールドがあるからこそ、学生たちが意欲的になるのではないかと感じます。そして清水寺の援助と、仏教思想などについてのご教示やご助言があったことで、最終成果物はとても魅力的なものになったと思います。

### 遠藤直久

本年も、とても難解なテーマに対峙しながらも柔軟でバリエーションを持った提案がなされており素晴らしいと思います。学生さんたちは普段の専門的な学びとは違った、自身の個性のやり取りをチームの中で行いながら有意義に進められてきたことが感じられます。これから社会に旅立つ先でも専門性という強みを持ちながらも枠組みにとらわれない自由な発想を持って社会を見つめ、活躍されることを期待します。なによりこのような環境を与えてくださった森清顕氏をはじめ関係者の方々に心より深謝いたします。



## 活動資料

## 2019.6.9 清水寺：森清顕先生による講話、境内案内



森先生より、清水寺の1200年以上に渡る伝統と文化を重んじる中での、今年度のテーマであった清水寺の近況、また近年の観光までの変化についてお話いただきました。その後、フィールドワークにて、清水寺に現存する文化財、サインのあり方や、観光客のマナーなど幅広く解説いただきました。

## 2019.8.18 清水寺：草案批評とフィールドワーク



各班員が持つ知識やインターネットの情報、森先生の話や踏まえ境内を散策し、どのような問題点または長所があるか探しました。

その内容の質を先生たちと高めていく過程=エスキスを経験し、ツクルことの大変さをこれから知ることになります。

## 2019.10.13 清水寺：森清顕先生への中間発表



今まで思考錯誤して育ててきたアイデアを森先生に途中経過として発表しました。各班、様々な方法による提案を行い森先生のエスキスを有意義に受けることができました。

案の方向性や質を高める方法などを話し合い、より具体的な形を掴む良い機会になりました。

## 2019.11.03 清水寺：最終発表に向けた準備

## これらの結果…

仏教を体験し、仏教の概念に触れてもらうことができる。



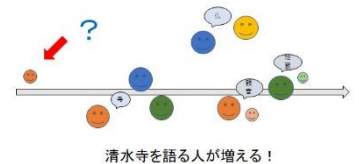
- ・観光客⇄仏教の本質に触れて、参拝者になることができる
- ・清水寺⇄観光客を参拝者として、受け入れることができる

## 《清水寺の「本堂」の「観光地化」を救え!!》

「舞台上にポストを設置する」ことで、それにより

- ・「舞台上で、内陣の方向を向いてもらえる」
- ・「観光客が清水寺の宗教観に、より触れやすくなる」
- ・「観光客が参拝者に変化する」
- ・「参拝者にとって清水寺が聞いてもらう場所になり、心の寄り所となる」
- ・「参拝者と観音様が繋がる」

だから清水寺のファンになる。



森先生に発表する最終成果物の最終エスキスの日でした。どの班も魅力的な案を持っており、あとは上手に伝えられるようにまとめる段階にありました。まずは来月森先生を納得させられるように最後のエスキスを真剣に聞き、修正箇所を綿密に探しました。